

# 山田みやこの活動報告

令和元年6月15日(金)・16日(土)

## 第6回性暴力救援センター全国研修会に参加

～性暴力被害者支援のためのワンストップセンターとは その現状と課題～

会場 大阪市マイドーム大阪

〈1日目〉

今回初めて内閣府男女共同参画局推進課 暴力対策推進室長が参加され、DV・虐待被害者支援をしている民間団体への支援拡充と性暴力救援センターの質の向上のために力を入れると報告あり。

被害者支援をしている弁護士の吉澤 尚美氏は、各県のワンストップ支援センターの病院拠点型は全体の22%、連携性78%。病院拠点型が望ましいが課題もある。病院とセンターの職務の兼務、医療報酬が性暴力支援に反映されない、精神的支援に対応できる医師の確保・養成が難しい、国からの財政的支援など。ワンストップ医療機関として高く評価する政策が必要と報告。

連携型から病院拠点型へ移行する沖縄県立中部病院三浦 耕子医師は、連携型で4年間被害者の様々な現実に向き合い、連携が必要な組織と関係づくりができ、小児科医との関わりも深まり4年間は無駄ではなかったと報告。

〈2日目〉

各県に最低は1ヶ所設置とされたワンストップ救援センターが現在全国に設置された。その内の35センターから現状の報告がなされた。本県の済生会宇都宮病院に設置された「とちエール」も報告された。

更に性暴力救援センター大阪「SACHICO」の加藤治子代表は、性虐待被害児の低年齢化が進んでいると報告。

幼児期から家の中で性虐待が起きている。加害者は実父・実兄・義父など。児童相談所・警察・検察の三機関が被害児の意思や気持ちを尊重し、心理的負担を緩和するため事情聴取に共同で立ち会うことになってから、少しずつ加害者の逮捕が増えてきた。

子どもを取り巻く環境が悪化しているため、ますますワンストップ救援センターの果たす役割が拡大されている。質の向上が更に求められる。

第6回 性暴力救援センター全国研修会

性暴力救援センター全国連絡会  
2019年6月に発足した、全国各府で性暴力救援センターとして活動している団体のネットワークです。

「性暴力被害者支援のための  
ワンストップセンターとは  
～その現状と課題～」

2019年6月15日(土)・16日(日)

会場: マイドームおおさか 1階 展示ホール A

● 1日目: 6月15日(土) 13:00~17:45 (開場 12:30)

- ◆講演1 「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの現状と課題」  
杉田 和暁さん(内閣府男女共同参画局 推進課 暴力対策推進室 室長)
- ◆講演2 「日本弁護士連合会が行なった性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターに関するアンケート調査から見える現状と課題」  
吉澤 尚美さん(弁護士 日本弁護士連合会犯罪被害者支援委員会)
- ◆講演3 「病院拠点型ワンストップセンターの現状と課題」  
三浦 耕子さん(沖縄県立中部病院 産婦人科医師)  
加藤 治子さん(性暴力救援センター・大阪 SACHICO 阪南中央病院 産婦人科医師)

◆議員より発言  
◆シンポジウム

● 2日目: 6月16日(日) 10:00~16:00 (開場 9:30)

- ◆報告 「全国のワンストップセンターの現状と課題」  
性暴力救援センター全国連絡会登録団体から
- ◆学習会 「性虐待への対応 ～三者協同面接の現状と課題  
性暴力救援センターの関わり方～」

参加費 事前申込 前売り 5,000円(2日間)・当日 7,000円  
定員 500名(先着順) ※お申し込み方法は裏面をご参照ください。

主催: 性暴力救援センター全国連絡会  
共催: NPO法人 性暴力救援センター・大阪 SACHICO  
ワイメンズセンター大阪  
後援: 内閣府・厚生労働省・大府府・大阪弁護士会・大阪産婦人科医会(日本産婦人科医師会(日本産科婦人科医師会)発行野郎)  
和歌山県・和歌山市・泉大津市・泉佐野市・茨木市・大阪市・大阪狭山市・貝塚市・柏原市・交野市・門真市  
河内長野市・岸和田市・堺市・四條畷市・摂津市・泉南市・大東市・高石市・高槻市・豊中市・富田林市  
藤原市・羽曳野市・阪南市・東大阪市・枚方市・藤井寺市・松原市・箕面市・守口市・八尾市  
朝日新聞社・産経新聞社・毎日新聞社・読売新聞社・一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団  
この研修会は、公益財団法人セリフが海防財団の協力をいただき開催いたします

【お申込み・お問合せ】性暴力救援センター全国連絡会事務局  
大阪市阿倍野区旭町 2-1-1-123  
TEL & FAX 06-6634-1199  
Email wco@wco-net.jp

